

平成27年度



学校評価



秋田県立雄勝高等学校

【学校評議員】

菅 義雄（元町長）

戸部 尚武（横堀地域づくり協議会会長）

小野垣昭治（前PTA会長）

高橋 讓（PTA会長）

— 目 次 —

1年部	1～	2
2年部	3～	4
3年部	5～	6
総務部	7～	8
教務部	9～	10
生徒指導部	11～	12
特別活動部	13～	14
進路指導部	15～	16
研修部	17～	18
保健・特別支援・教育相談部	19～	20
図書・情報・視聴覚部	21～	22

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	<p>(1) 規律ある生活習慣を確立させ、望ましい人間関係の構築を図り、豊かな人間性の醸成を目指す。</p> <p>(2) 自ら学び行動する学習態度の育成と基礎学力の定着を図る。</p> <p>(3) 自らの望ましい進路実現に向けての意識を芽生えさせる。</p>	P
現 状	<p>(1) 学年の生徒数が少ないため、学校行事などでは一人ひとりが主役となり、一人何役もこなさなければならない場面が多い。そのため、豊かな人間性の醸成が少しずつ形成されている。</p> <p>(2) 基礎学力の定着については放課後・夏季補習を実践している。課題提出ができない生徒の対応に苦慮している。</p> <p>(3) CL、LHR、面談などで実践中である。</p>	
具体的な目標	<p>(1) ①保護者との連携を密にし、無断欠席の防止、明るい挨拶、正しい整容、ベル着、提出期限の厳守、私物の管理等を徹底させる。</p> <p>②授業や行事など様々な場面をとおり、自ら考え行動し、他人を思いやる心を育み、品性の陶冶を図らせる。</p> <p>(2) ①授業に集中して取り組ませ、家庭での学習習慣をつけさせる。</p> <p>②朝学習等で読書の習慣を身に付けさせ、補習などを通し、全体的に学習成績のレベルアップを図る。</p> <p>(3) ①LHR、総合的な学習の時間、面談などをとおり、生徒が主体的に進路学習ができるようにさせる。</p> <p>②積極的にボランティア活動に参加させることで、職業観を育成させるとともに、地域住民との交流をとおり、コミュニケーション能力を養成させる。</p>	
目標達成のための方策	<p>(1) 日々の授業や、LHR、学年集会などの場をとおり物事を考え、発表する場を多く設ける。</p> <p>(2) 朝学習や補習、家庭での学習、課題提出、定期考査への取り組みをとおりして指導する。</p> <p>(3) 進路ガイダンス、面談などで情報提供を行い、ボランティア活動への参加を推奨する。</p>	

具体的な取組状況	<p>(1) ①学年部全体で取り組んでいる。 ②人間関係において大きなトラブルがないよう配慮している。</p> <p>(2) ①課題提出チェックと、未提出者への指導 ②朝読書、放課後補習、長期休業中の補習、添削指導の実施</p> <p>(3) 進路プリントの活用やQUの実施で自己を知る機会を設けた。 また、パソコンでの調べ学習や、業者による進路別ガイダンスを実施するとともに来年度へ向けて保護者面談を実施した。</p>	D
達成状況	<p>・全体的に素直な生徒が多く、大半の生徒が自己肯定感を持ち、「他を思いやる心」を持つようになったため、良好な人間関係を保っている。学習意欲の向上が見られる生徒も増加した。様々な学習活動をおし、進路意識も芽生えてきた。</p>	

自己評価	<p>(評価)</p> <p>A</p>	<p>(根拠)</p> <p>・昨年、生徒に学校生活についてのアンケートを実施したところ、全員が現在の学校生活に「ほぼ満足している」と回答した。また、2年生の系統別の選択について、保護者面談を実施し、生徒の相互理解ができるとともに将来について学校と家庭との連携が密になった。読書感想文コンクールで「全県入選」と「全国入賞（全県最優秀賞）」を獲得でき、全体の活性化に繋がった。</p>	C
------	----------------------	---	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p>A</p>	<p>(意見)</p> <p>概ね良好。少人数のため、各行事などについて心配したが、無事に活動ができたため、評価はAでよい。 ボランティアについて、生徒が率先して自ら進んで取り組んでいるなど、積極性が見られる。大変助かっている。</p>	C
------------	----------------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>2年生になり、中だるみとならないように、気を引き締めさせ、提出物を出せない少数の生徒への指導を徹底させていきたい。 また、学習については、各教科と連携をとりながら、家庭学習の時間を増やし、生徒一人ひとりのニーズにあった補習を展開したい。 少人数の利点を活かし、将来の進路選択の幅が広がるように学習面、生活面等の指導を密にして、更なる人間力の向上に努めたい。</p>	A
-----------------------	---	---

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 学習習慣と基礎学力の定着 (3) お互いに信頼し合える人間関係の構築 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> (1) 整容は概ね良好である。カバン等は廊下に整頓されているが、開けっ放しにしない指導を行っている。 (2) 家庭学習時間がない生徒が減少し、1時間程度の生徒が増加しているが、まだまだ学習不足である。 (3) 学校行事等での成績から、クラスの団結、協調性、自分の役割への責任感の向上が感じられる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) ①きちんとした身だしなみ、適切な言葉遣いを身につけさせる。 ②私物の管理、提出物の期限厳守を徹底させる。 (2) ①苦手教科の学習を簡単に諦めさせず、最後まで取り組ませる。 ②家庭学習習慣を身につけさせる。 (3) ①お互いに認め合い、相手の気持ちを考えた行動を身につけさせる。 ②集団における自分の役割をきちんと理解させ、遂行させる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 毎日の学校生活やインターンシップ等を通して指導する。 (2) 課題提出や定期考査への取り組みを通して指導する。 (3) クラス活動や学校行事を通して指導する。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各学期の初めと、インターンシップ、修学旅行、学校祭前に学年職員で整容検査を実施している。 (2) 長期休業時の課題完成後の解答配布、就職基礎ドリルのチェックテストの採点、補習、再テストを行った。 (3) 学校行事の役割分担では、全員が活躍できる場面を設けた。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 整容、教室の整頓は概ね良好である。 (2) 苦手教科の学習時間は増え、成績も向上傾向にある。 (3) 与えられた仕事はしっかり行うことができた。集団生活の中で、他を思いやる行動が見られた。 	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	<p>整容等、基本的な生活習慣は問題なく、相手を思いやり、良好な人間関係を築いている。</p> <p>就職基礎ドリル、各種模試で、苦手教科へ取り組む機会は増え、多くの生徒が努力しているが、進路実現に対する積極性、自主性に欠ける生徒がないとは言えない。</p>	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<p>生徒の生活態度はよく、様々な地域行事への協力も好評である。</p> <p>生徒の自主的努力については、個々にあったやり方で工夫して欲しい。</p> <p>就職基礎ドリルの学習指導、全3回のチェックテストの実施と不合格者を対象とした補習、追試指導など、苦手教科へ取り組む機会を増やしたことが評価できる。</p>	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>生徒全員参加の就職基礎ドリル学習、チェックテストは次年度も4回計画されています。今年度3回のテスト結果を分析すると、問題の難易化、生徒の意欲不足により、平均点は英語を除き、低下傾向にあります。</p> <p>今回の分析結果を参考に、次年度に向けた家庭学習の改善、CL, LHRの時間を活用し基礎学力の定着に努めていきます。</p>	A
-----------------------	--	---

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	(1) 望ましい生活習慣の確立 (2) 基本的な学習事項の定着 (3) 希望進路の実現	P
現 状	(1) 整容面に関して自分自身に甘い生徒がいるので、就職試験・進学試験に向けて、自ら気づいて正すよう指導している。 (2) 授業や課題提出だけでなく、進路実現に向けた作文添削や面接練習に取り組んでいる。 (3) 担任や就職支援員との面談を通して進路希望を明確にし、その実現に向けて一人ひとり課題に取り組んでいる。	
具体的な目標	(1) ①身だしなみ・挨拶・言葉遣い・私物管理の習慣を徹底させる。 ②自ら考え、判断する能力を身につけさせる。 (2) ①継続的な家庭学習や課題提出を徹底させる。 ②社会人として必要な知識を習得させる。 (3) ①自己の適性を理解させ、進路実現を達成させる。 ②目標に向かって最後まで粘り強く取り組ませる。	
目標達成のための方策	(1) 日常の指導を通して、身につけさせる。 (2) 一般常識チェックテストなどを活用し、必要な知識を身につけさせる。 (3) 各種模試、個人面接をとおして、自己の能力を把握させる。	
具体的な取組状況	(1) 定期的な整容指導の実施、日常的なあいさつ指導 (2) 課題提出の確認、定期考査への取り組み徹底 面接練習や作文・小論文添削、看護系進学者向け補習の実施 (3) 担任・就職支援員と生徒・保護者の面談を実施	
達成状況	生徒一人ひとりが自分の適性・能力に見合った進路希望を実現するために、それぞれ与えられた課題に取り組んできた。また、一度失敗してもあきらめずに再挑戦し、最終的に成果を得ることができた生徒も多かった。	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<p>入学してから3年間、社会に通用する生徒の育成という共通認識をもって、日々の身だしなみやあいさつ、言葉遣い等、細かな部分に焦点をあてた指導を徹底してきた。</p> <p>生徒たちも入社試験や入学試験のための準備に全力で取り組み、結果としてほぼ全ての生徒が進路希望を実現することができた。</p>	

- ↑ 評価基準
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
- B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
- ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<p>最後までがんばったと思う。知り合いの3年生をよく見てきたが、先生方の影響により生徒の成長を親も感じているようである。</p> <p>資料の通り、進路について全力で取り組み進路実現できているので評価Aでよい。</p>	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>3年生全員が進路希望を実現することができたのも、3学年部職員だけではなく、他学年や教科担任、部活動顧問など多くの先生方に指導していただいたおかげである。</p> <p>今年度の指導を次年度にうまく引き継いでいきたい。</p>	A
-----------------------	---	---

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	(1) 儀式・行事等の円滑な運営と実施 (2) P T A活動の充実	P
現 状	(1) 儀式・行事等は職員の協力的な取り組みにより、滞りなく円滑に実施できている。 (2) PTA総会には27名の保護者の参加。他校との情報交換会でも参加してもらえるような工夫を模索しているが、ここ数年で保護者の多忙化がさらに進んでいるようで万策尽きた感じは否めない。	
具体的な目標	①校内各分掌との連携を深める。 ②保護者との連携を図り、P T A活動への参加率向上に努める。 ③地域や校外諸団体との連携を深め、広報活動を強化する。	
目標達成のための方策	(1) 可能な限り情報の共有ができるように努める。 (2) 「eメッセージ」を活用した情報発信の機会を多くする。 (3) P T A上部団体等との連携強化を図る。	
具体的な取組状況	①本校の職員数が少ないこともあり、分掌を超えた協力的な取り組み体制が確立しており、諸行事への取り組みは非常に良好である。 ②PTA関係の情報は、本校PTA会長役員を中心に高P連事業の紹介や学校行事の呼びかけを早めに、こまめにして普及に努めた。 ③広報活動としては、「勝高だより」を掲示していただける町内の公共施設および飲食店や販売店等の数を増やしたり、生徒会を中心に地域の活動に参加することで普及に努めている。	
達成状況	①大きな改善や懸案事項も無く、大変良好に事業が遂行された。 ②学校側からの発信として、試行錯誤しながら新しい取り組みをしたが、PTA活動に関しては、やはり多忙な保護者が多く、参加や協力していただける保護者は固定化しており少数である。 ③宣伝の“数”を増やしたことで多数の目にとまるようになった。	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	<p>①行事等への取り組みは、学校組織として遺漏無く完遂できていることから良好である。</p> <p>②やはり保護者の多忙化による参加率の低さが、参加する少数の保護者の固定化と、参加できない保護者が参加している保護者への一任・依存を一層進めているように思える。この状況に対しての手立ては他に何かあるのか、これを探し出さないと現状は変わらないと思われる。</p> <p>③現在の活動を今後も継続していきたい。</p>	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝高だよりの反響が大きく地域でも注目しているし、効果があると思う。保護者は比較的行事にも来ていると思う。広報などを活用して参加増加を期待している。 ・ こまめに事業情報を提供してもらえたので予定が立てやすかった。親睦会などがあればよりわかり合えるのではないかな。勝高だよりなどで地元企業の情報も広めてほしい。 ・ P T Aの参加が少ないが、割合としては他校より高い。役員が呼びかけをして広めていきたい。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>広報活動の見直しや親睦会の企画など、保護者が参加しやすい環境作りを検討したい。また、P T A総会の参加率が他校より高かったという報告を聞き、あまり悲観的にならずに、できるところから少しずつ参加率を高めていくようにしたい。</p>	A
-----------------------	--	---

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒に確かな学力を身に付けさせる (2) 新学習指導要領の実施にかかる課題への検討 (3) 教務関係事項の安定的な遂行 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の実情・現状を把握し、学力向上に向け、生徒個々の問題に対応できる体制を整えている。また学力向上に向け授業改善に取り組んでいる。 (2) 教育課程は順調に実施されているが、来年度の系統、科目の選択希望人数の状況により、検討が必要になる。 (3) 教務関係の業務は順調に遂行されている。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎的な学力の養成 (2) 基礎基本の充実を目指した教育課程の実践。 (3) 学習環境の整備 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①習熟度別授業、少人数授業の工夫、 ②基礎基本の充実を目指した教育課程の実践 ③生徒のスキルアップの工夫 ④欠点克服のための指導の充実 ⑤授業時数の確保と調整 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 習熟度別授業、少人数授業をはじめ、生徒の実態に即した授業改善がなされ、目標達成に向けたスキルアップに努めている。 (2) 個々の生徒がかかえる課題を踏まえ、日々の教育活動を通し、新教育課程の実践と課題の探求がされている。 (3) 日々の業務を教務部員が協力し合い運営している。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各教員が各々に授業改善に工夫を凝らしている。 (2) 基礎を踏まえ、それぞれの生徒が自分で選択した系統において、自己の目標実現に向け学習活動に取り組んでいる。 (3) 円滑に業務が運営されている。 	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	日々、学習活動の実践のため、適切な業務分担をし、円滑に業務が遂行されている。教育課程についても、生徒の実態に即して編成され、各教科、各学年と連携し生徒のスキルアップにつながっている。また課題として、今後予想される、生徒減に対応する教育課程の改変について研究が必要である。	

- ↑ 評価基準
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	少人数で張り合いがないかと心配だったが、いい指導をしている。少人数で授業を受けられるというのは利点が多く、生徒は恵まれた環境で学習している。マンツーマンに近い個別学習も行われており、少人数学習の模範校となるよう、情報発信をしてほしい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	現在の生徒が少ない状況は学校運営的には厳しい面があるが、生徒の立場では、評議員のおっしゃる通りメリットになる部分も多い。生徒減をはじめ、教員配置の減など、厳しい状況が予想される中、生徒にとってのメリット部分を確保しながらの教育課程の検討が必要だと思われる。		A
	また、日ごろの教務関係の仕事では、部員同士チェック機能を高め、さらにスムーズな学習活動の運営に努めていきたい。		

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	(1) 基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、他を思いやる豊かな心と態度の育成に努める。	P
現 状	全体的にしっかりとした学校生活を送ることができている。 一部に考えの甘い生徒もいるが、注意や指導を受けると整容や生活習慣を見直すことができている。現状を維持するため、そしてさらに向上させるためにも、日々の生活の中で生徒一人一人に対して温度差なく粘り強く取り組む必要がある。	
具体的な目標	①整容指導の充実 ②生徒の私物の管理の徹底 ③携帯電話に関する指導の充実	
目標達成のための方策	①生徒相互が整容の乱れに気づくことができるように服装や頭髪の指導を充実させる。 ②私物の持ち帰りや学校へ必要ない物を持ち込まない指導の徹底 ③携帯電話の指導を早期に徹底することにより、生徒が事故等に巻き込まれないようにしていく。	
具体的な取組状況	①日頃から学年部を中心に指導を行っている。 ②担任を中心に私物管理（持ち帰り）を徹底させている。 ③携帯の使用に関しては、集会等でその都度注意を呼びかけている。また、校内での一切の使用を禁止している。	
達成状況	いずれも達成状況は良好である。また、今年度は4月から現在まで生徒指導上の問題行動が「ゼロ」という状況である。	D

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	担任・学年部を中心とした取り組みのおかげで目標は概ね達成できていると思われる。特に整容面に関しては地域でも高い評価を受けている。また、一昨年度、昨年度と年度初めに連続して発生した携帯電話の不正使用も今年度は今のところ発生していない。	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	現状に満足することなく、要所要所での注意喚起を継続してほしい。 地域の方々からは「あいさつが良い」「整容がしっかりしている」との高い評価をいただいている。また、ボランティア活動を通して全国の方々からも対応・態度が良いという評価をいただいた。 今年度問題行動が「ゼロ」ということもすばらしい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	整容面やあいさつ等での高評価や携帯電話の不正使用をはじめとする問題行動の発生を今年度絶つことができたのも、生徒指導部だけでなく教職員が一丸となって生徒の目線に立った対応（指導）の結果だと感じる。今の状態を維持するためにも現状に満足することなく、常に危機感を持ち、職員間・学年間でのばらつきのない指導を心掛けたい。	A
-----------------------	--	---

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心身の発達、個性の伸張、集団の一員としての資質を育む。 (2) 自主的・主体的な生活態度を育成し、たくましく生きる力を育む。 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> (1) まだまだ発展途上であるが、運動会、球技大会等の行事を通して、少しずつ醸成されているものと思われる。 (2) 例年通りボランティア活動への積極的な参加が見られる。今後、学校祭等で生徒減の影響を補う活躍ができるかが課題である。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事や生徒会活動、ボランティアに積極的に参加する態度の育成 (2) 部活動の活性化 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会や各委員会からの広報活動を活発に行う。 (2) 主将会議を開催し、学校の代表としての自覚を促す。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校祭では生徒の意見を積極的に取り入れ、新しい企画を実行する等した。 (2) 生徒減のため各行事の運営計画を見直し、プログラムの改編等に対応した。 (3) 生徒減が部活動へも顕著な影響を及ぼしているが、他部からの人員援助や他校との合同活動等を積極的に展開している。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 行事のマネリ化を防ぎ、生徒の責任感とモチベーションも高まったと思われる。 (2) 各行事等において、例年の流れと盛り上がりを維持することが出来た。 (3) 通常の大大会に参加することができ、実績を上げることも出来た。 	

自己評価	(評価)	(根拠) 学校祭の新企画としてバザーを立ち上げたところまではよかったが、広報活動等が不十分で商品の集まりが悪かった。計画が達成されるまで責任を持って実行する姿勢を養いたい。部活動では各部とも今できる最大限の活動が出来ていると思われる。	C
	B		

- ↑ 評価基準 ↓
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見) 生徒減に伴い、行事の見直し等が随時必要になってくるであろう。従来の形を極力維持しつつ、生徒一人一人がやりがいを持って取り組めるような内容にしてほしい。同様に部活動も他校との連携等が必要になってくるであろう。生徒の活躍の場を確保する上で効果的な取り組みであるが、他校生との交流の中で一つの目標に向かって協力していくという、得難い経験も積むことが出来ると思う。是非推進してもらいたい。ボランティアについては、長年積み重ねてきたものが地域に根付き、学校のよい伝統として受け入れられている。	C
	A		

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	生徒の意見を取り入れた行事運営は今後も進めていきたいが、その際、生徒との打ち合わせを密にし、行事の趣旨やこちらの考えを十分理解させた上で実行に移していきたい。生徒が自ら考え、工夫しながら進めていくのが理想であるが、経験値の低い生徒が多いので、最初は教員側がある程度主導して、意識付けしていきたい。ボランティアについては現在の状態を維持していかなくてはならないが、担当の負担もかなり大きくなってきている。学校内のシステムの再考も必要であろう。	A
-----------------------	--	---

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	将来の行き方・生活のしかたを考えさせ、主体的に自己の進路を決定させ、志望を達成させる。	P
現 状	多くの生徒はインターンシップ、進路ガイダンス、校外進学相談会などに積極的に参加することで、自分の進路目標を具体的にし、実現に結びつけている。一方、進路志望先を最後まで主体的に絞りきれない生徒も多くいる。また、基礎学力やコミュニケーション能力についても、学年が上がるにつれて向上はするものの、十分身につけていない生徒が多いのが現状である。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の人生設計や職業観・勤労観など望ましい生き方を確立させる。HR活動や総合的な学習の充実 ②学力向上のため、補習授業の強化 ③社会生活に必要な基本的な生活習慣を確立するための指導の充実 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①いろいろな講演や体験活動により人生設計を考えさせる。 ②平日、放課後の補習を計画的、継続的に実施する。 ③インターンシップなどの活動により、基本的習慣、規範などを徹底する。 	
具体的な取組状況	進路講演会、進路別ガイダンス、進路講話（社会人、卒業生）、外部講師による模擬面接、県南職場研修事業、インターンシップとその事前・事後指導、職場見学、ふるさと企業紹介事業、職業別ガイダンス、合格体験発表会、長期休業中の補習 上記の計画的な取り組みの他、小論文や作文、面接指導を全職員が協力し指導している。	D
達成状況	平成28年1月15日現在の進路達成率は、民間就職97.2%、公務員100%、進学97.1%と良好である。就職に関しては、就職支援員によるアドバイスの力が大きい。進学では看護から別の学科へ変更した生徒もいる。	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<p>全職員の協力のもとでさまざまな取り組みを実行し、最終的に3年生の進路決定に結びつけることができたため。</p> <p>また、昨年に引き続き、就職支援員との連携を大切にし、民間就職決定のために最大限の力を発揮してもらうことができたため。</p>	

- ↑ 評価基準
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
- B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
- ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<p>1月末時点で3年生の進路決定状況が100%というのはすばらしい。全職員で対応した結果が反映されている。</p> <p>職場見学に関しては前年度の例だけでなく、企業の実績等も踏まえて企業選びをした方がよいと思う。</p> <p>仕事は3～5年しないと覚えませんが、昔と違い怒られなくていいため、今はちょっと怒られただけでやめていく社員が多い。就職後の姿勢についても指導してほしい。</p>	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	(評価)	(意見)	A
	A	<p>来年度の職場見学の企業については、就職支援員の意見を参考にし、業績の向上している企業で本校の生徒が勤務している企業を選ぶよう1年部と進めていきたい。</p> <p>就職後の姿勢については、整容面や挨拶、提出物の期限厳守等はこれまでもやってきていることであるため、意識については講演会やガイダンス等を通じて指導していきたい。</p>	

評価領域	研修部
------	-----

重点目標	校内外における研修の充実を図り職員の資質の向上に努める。	P
現 状	<p>中学までの学習内容が定着していないまま入学してくる生徒が少ないので、授業では中学の復習から始め、その部分に時間もかけている。基礎的なことはもちろん、それ以上のものを身につけさせ卒業させるためには、どのようなことを授業で行っていけばよいのかを日々試行錯誤している。</p> <p>そこで研修部ではお互いに授業を見学し合う研修を企画し、授業力向上に役立ててもらっている。また校外研修へも参加を勧めている。</p>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科の研修の計画と推進 ②相互授業参観研修・授業研究会などの充実 ③各種研修の情報提供と参加促進 ④初任者・各年次研修の円滑な運営 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科と協力し、必要とされる研修を計画し実施する。 ②全職員で協力して実施する。 ③各種研修の情報等を提供し、参加を促す。 ④全職員で協力して実施する。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①②校内授業参観研修の実施（6月・9月の2回）、授業研究会の実施（10月） ③④総合教育センター研修、中学校授業研究会への参加 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ①②校内授業参観研修→各回実施後、職員会議で感想のまとめを報告した。職員全体で授業改善の良いアイデアや方法等を共有し、それぞれの授業改善に活かしてもうらうようにした。授業研究会→各分科会から出た工夫が見られた点やより良くなるアイデア等を全体会で共有した。 ③④職員会議で内容等を報告し、それらを全職員で共有した。 	D

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	アンケートによれば、授業の理解度がすすんでいることから、よりわかる授業を実践するための工夫が反映されてきていると考える。	

↑ 評価基準
A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方のはつらつとした姿を見ると、生徒たちも頑張ろうという気持ちを持てるようになると思う。生徒たちの心に残るような、魅力ある先生になっていてもらいたい。 ・様々な研修を積んでいくことが大切であり、また全員が研修に参加していることに意義があると思う。引き続き、研修を通じて職員同士の良好な関係を築いていてもらいたい。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で授業参観研修や授業研修会を実施していくこと、授業改善のための方法を共有しあい、各自の授業に工夫を凝らしていくことを継続していく。 ・引き続き、各種研修の情報を提供し参加促進を図っていく。 	A
-----------------------	--	---

重点目標	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくことのできる生徒を育てる。	P
現 状	<p>保健 : 保健室利用生徒は、不注意によるケガがほとんどである。心の不調による来室は、今年度減少している。基本的な生活習慣が確立していない生徒は、少ないとは言えない。</p> <p>特別支援 : サポートが必要と思われる生徒が在籍している。個別の指導計画を作成し、指導に生かしている。</p> <p>教育相談 : スクールカウンセラーによる面談を月1回実施している。担任と生徒の面談も適宜行われ、きめ細かい指導が行われている。</p>	
具体的な目標	<p>①心身の健康を自己管理できる能力の育成</p> <p>②学習環境整備の推進</p> <p>③サポートを必要とする生徒の自己理解を深めさせるための指導の充実</p>	
目標達成のための方策	<p>①保健便りの定期的な発行、保健講話の実施、各学年部との連携推進、スクールカウンセラーとの連携</p> <p>②学校安全点検の実施、保健委員会による美化活動</p> <p>③クラス担任及び教科担任と学習サポーターとの連携強化、サポートの適宜見直し、職員研修会の実施</p>	
具体的な取組状況	<p>①保健便り毎月発行 保健講話実施 スクールカウンセラー面談9回実施（1月末現在）</p> <p>②学校安全点検隔月実施</p> <p>③学習サポーター継続指導のメリットを生かした指導の工夫 職員研修会の実施 校外研修への参加</p>	

達成状況	<p>①具体的な成果は見えにくいですが、生徒の多くは落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>②事務室の迅速な対応のおかげで、概ね達成されている。</p> <p>③学習サポーター継続3年目、職員との連携は良好である。が、個人の生徒が抱える課題は多様化し、指導の難しさが増している。</p>	
------	---	--



自己評価	<p>(評価)</p> <p>B</p>	<p>(根拠)</p> <p>①②③において、目標に向かって活動がなされている。今年度は、特にスクールカウンセラーの力をお借りすることも多く、外部機関との連携の必要性を例年以上に感じる場面が多かった。職員の協力体制は良好である。</p>	C
------	----------------------	--	---

- ↑ 評価基準
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない
- ↓



学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p>A</p>	<p>(意見)</p> <p>スクールカウンセラーが活用されていてよいと思う。生徒にとって、いろいろな話をできる相手は先生だと思うので事の善悪を含め、しっかりと教えてやってほしい。また、保健室が担う役割は大きく、養護教諭も大きな存在である。担任に言えないような話を聞いてやってほしい。目に見えない部分が多く大変だと思うが、今後も全職員が連携して取り組んでもらいたい。</p>	C
------------	----------------------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>スクールカウンセラーの配置は、来年度も希望を出している。生徒数は減少しても、悩みや問題を抱える生徒はあまり減らないと予想されるので、外部機関との連携をいっそう深めていかなければならないと思う。来年度も、保健室と学年部の協力体制が良好であるよう迅速な対応と情報の共有に努めたい。</p>	A
-----------------------	---	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 利用しやすい図書館づくり (2) 読書をとおり、思いやりの心を育み、品性の陶冶を図らせる。 (3) 情報・視聴覚機器の活用 (4) 校内LANの活用 	P
現 状	<p>図 書 (1) 県立図書館から生徒の興味を引くテーマの本を年4回、雄勝図書館からは毎月借りたり、アンケートを取り図書を購入し、PRもしたりしているが、利用者は少ない。</p> <p>(2) 朝読書や読書感想文を実施している。</p> <p>情・視 (3) 視聴覚教材を活用した授業が効率的に行われている。</p> <p>(4) 業務系・学習系とも校内LANが機能している。</p>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) ①図書館の環境整備 <li style="padding-left: 20px;">②図書・図書編集委員会の活動の活性化 (2) 蔵書のPR活動の実施 (3) IT・視聴覚機器を活用した授業実践 (4) 情報管理システムの整備・強化 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①人気図書等の情報収集 ②図書館報「小町草子」の発行 ③県立図書館・雄勝図書館との連携 ④朝読書や読書感想文などの実施 ⑤新しいIT・視聴覚機器の情報収集 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒・職員に購入希望図書アンケートを実施 ②「小町草子」を19回発行 ③県立図書館から年4回、雄勝図書館から月1回の借用 ④全校朝読書の実施。1、2年生読書感想文コンクールへの参加 ⑤H・Pを随時更新し、ネットワーク環境を整備した。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全てにおいて概ね達成できた。 	



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新着図書、蔵書紹介、図書館アンケート、購入希望図書アンケート等の実施、「小町草子」の発行など、図書編集委員とボランティア生徒の活躍が顕著だった。 ・全校朝読書の実施で教育的効果が上がった。 ・読書感想文コンクールや、読書感想画に出品し、入賞を果たした。 	

- ↑ 評価基準
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<p>本校の中でもいろいろな活動を本当によくやっていて感心した。</p> <p>情報・視聴覚機器の活用について、生徒はスマホでニュースを見る等、情報ツールの活用を上手にしている。この分野は生徒も興味があるので、今後ますます広げていってほしい。</p>	



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>図書については、国語科とも連携を取り、今後も生徒を活かしながら、読書活動の推進に努めていきたい。</p> <p>情報・視聴覚については、校内の情報管理システムの整備を強化するとともに、内外に向けてタイムリーな情報を発信していく。また、生徒には授業や様々な場面をとおり、ITの効果的で正しい使い方を学ばせていく。</p>	A
-----------------------	--	---